

埼玉県親善大使レポート

「埼玉県の表情」

埼玉県秩父市出身

猪俣 翔平 / Shohei Inomata

0. はじめに

この度、埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ〈大学付属英語学校派遣〉事業の奨学生としてオーストラリア・クイーンズランド州のゴールドコーストに派遣させて頂きました猪俣翔平（いのまたしょうへい）です。

当事業はクイーンズランド州ゴールドコーストに位置するサザンクロス大学への留学、並びにホームステイでの2週間ないし4週間の滞在を軸としており、現地の人々や文化とのふれあいを通じて、埼玉県とクイーンズランド州の相互理解を深めていく事を目的としています。私は2週間ほど派遣させて頂いたのですが、派遣に先立ち、埼玉県親善大使の任を拝命致しました。現地生活での吸収のみならず、埼玉県を代表して現地の方々と親睦を深めさせて頂いた経験は非常に学びの多いものでした。

当レポートでは、主に「活動報告(私がどのような活動や体験をしたのか)」と、「現地理解を深めるための案内(現地はどのような風土文化なのか)」についてお伝えさせて頂きます。当レポートが、埼玉県とオーストラリア・クイーンズランド州の益々の交流や理解を深めるための一助、更には次年度以降の参考になれば幸いです。

当事業での派遣に際して、臨機応変なサポートなど多大なるご尽力を頂いた埼玉県庁国際課の皆さまをはじめ、多くの方に心より感謝申し上げます。

<目次>

0. はじめに

1. クイーンズランド州・ゴールドコースト

▼現地概要

[気候]

[歴史]

2. 滞在記

▼ホームステイの様子

[ホストファミリー]

[アクティビティ]

[おなじ人間]

▼留学風景

▼埼玉県 PR

[地図と写真で紹介]

[埼玉県を味わう]

3. 総括 -課題と提案-

▼感想

▼課題と提案

[課題 1]

[課題 2]

[提案]

4. おまけ

▼フォト・ギャラリー

[夕食]

[ゴールドコースト市の景色]

1. クイーンズランド州・ゴールドコースト

▼現地概要

まず、オーストラリアクイーンズランド州のゴールドコースト地域について簡単にご説明します。オーストラリアのゴールドコースト地域は UTC+10 の為、日本 (UTC+9) よりも 1 時間進んでいます。

[気候]

オーストラリアは南半球に位置するため、基本的に日本とは半年ずれた気候となっています。私が訪れた 2 月は真夏でした。気温はおよそ 21~28℃、湿度は 60~70% となっており、体感温度も高いものでした。南緯は 28 度 10 分になります。日本と比較するとすれば、鹿児島県・奄美大島 (北緯 28 度 19 分 35 秒) の気候をイメージされると良いでしょう。

[歴史]

ゴールドコースト市 (当時はサウスポート町, サウス・コーストと呼称) には、19 世紀前半頃¹よりヨーロッパ系移民の入植が始まります。それまで多くのヨーロッパ系入植者はクイーンズランド州の州都であるブリスベンに入植してきました。その後、19 世紀後半よりサウスポート町には多くの別荘が建てられ始めます。これを皮切りにサウスポート町は静養地・リゾート地としての性格を帯びてきます。やがて 20 世紀中盤になり、第二次世界大戦が終わると、この地には多くの帰還兵が保養を目的に訪れるようになります。人口増加等を背景に不動産価格が上昇すると、住宅取引の販売促進を目的に「黄金の海岸 (ゴールドコースト)」と呼ばれるようになります。これを受け、議会は地名をゴールドコーストへと改称²しました。1980 年にゴールドコースト空港が建設³された事を契機に観光客数は更に増加し、今日のように各国からサーファーや観光客が訪れ

¹ ヨーロッパ人によるゴールドコーストへの初めてのの上陸は 1823 年とされています。記録によれば、John Oxley, Robert Stirling, John Uniacke の 3 名が現在のマーメイドビーチに上陸しました。この時に彼らが乗っていた小型船舶の名前がマーメイドだった為の上陸した場所はマーメイドビーチと呼ばれるようになりました。このマーメイドビーチは観光地としても人気で多くの観光客で賑わっています。筆者も訪れました。

<http://www.goldcoast.qld.gov.au/thegoldcoast/mermaid-beach-history-2647.html>

² Council of the City of Gold Coast, 「Gold Coast history」, <http://www.goldcoast.qld.gov.au/thegoldcoast/gold-coast-histories-26556.html>, 2018 年 4 月 15 日最終閲覧。

³ GOLD COAST AIRPORT, 「ABOUT US」, <https://goldcoastairport.com.au/corporate/about-us/>, 2018 年 4 月 16 日最終閲覧。

るようになっていきました。

2. 滞在記

▼ホームステイの様子

[ホストファミリー]

Sean さん・Kymberly さんご夫妻（以下、ホストファミリー）のお宅にお邪魔させて頂きました。ホストファミリーのお宅は州境をまたいだニューサウスウェールズ州にあり、滞在中、サザンクロス大学（クイーンズランド州・ゴールドコースト）へは車で送迎して頂いておりました。毎日片道 10km の距離がありましたが、ご夫妻にとっては近所のような感覚との事で、オーストラリアという国の大きさを体感した気がします。

滞在中、ホストファミリーは非常に親切にしてくださいました。まず到着初日（日曜日）は、車で街の案内をしてくださいました。有名なビーチやクリフ、街の中心地などを地元の人ならではの目線・説明で案内して頂きました。初めて訪れる土地で心配だっただけに、初めに街の概要を知ることができたのはとても大きかったです。2週間の滞在を充実させる上で貴重な時間でした。



車で案内してもらっている様子



案内してもらった有名なビーチ

毎日の食事は、お料理好きのホストマザーが作ってくださいました。オーストラリアスタイルということでパイナップルをふんだんに使った料理を振舞って頂きました。特にバーベキューやピザなどは印象的でした。また、どうやら最近ではアジア料理にハマっているらしく、タイ風グリーンカレー、そばなど馴染みの深い料理も振舞ってくださいました。

[アクティビティ]

休日は、ワイナリーへも連れて行ってくれました。チーズと共に楽しんだ赤ワインは香り、味ともに素晴らしいものでした。ゴールドコーストといえば、ビーチが有名なだけに内陸部やワインなどは考えたこともありませんでした。

また、海岸線をサイクリングしに行ったり、川へカヌーを漕ぎに行ったりもしました。自分たちの他にも同じようにアクティビティを楽しむ人がたくさんいました。どうやら日常に溶け

込んでいるようで、この地域の人々は、自然と共存するようなアクティビティを嗜む人が多いな、と実感しました。



内陸部のワイナリー

[おなじ人間]

ホームステイ先で生活する中で不思議に思ったことがあります。それは、「オーストラリアの人は寝る時間が早く、起きる時間も早いのではないか」ということです。他のホストファミリーはどうなのか気になったので、他の留学生に聞いてみました。すると、どうやら他のホストファミリーも同じようでした。その理由を探ろうと、ホームステイ先のホストファザーに尋ねてみると、「シドニーのような大都市圏ではもっと寝るのが遅い」という回答を得ました。よくよく考えてみれば、これは日本でも同じで特に珍しい事ではありませんでした。人種や言葉、住む場所が違えど、根本的には人間は変わらないのだな、と半ば安心しました。ひよんな疑問から普遍的な事を見つめる機会となりました。

▼留学風景

同じようにサザンクロス大学付属英語学校へ留学している人々は、中国、台湾、ブラジルなどから来ているようでした。留学の理由を聞いてみると、彼・彼女たちは Degree 取得の為に、まずは英語学校で英語を修めているとの事でした。向上意識に溢れた学生に囲まれ、とても恵まれた学習環境でした。

授業は 8 時 30 分に開始し、90 分 2 コマ、60 分 1 コマの 3 コマで午後 1 時 15 分には終了しました。午後は図書館で勉強したり、近くのビーチに足を運んだりする事が多かったです。



大学からの眺望



大学の図書館

授業の内容は特別難しいものではなく、誰でも取っ付きやすいものでした。先生がとてもフレンドリー、かつ、積極的に会話を促してくれるため、テンポの良い楽しい授業でした。また、英語学校らしく例文を用いながら文法を学んだりもしました。全体を通して、生徒間のディスカッションが多い印象を受けました。そのため、文法だからと言って飽きることがありませんでした！特に、ディスカッション中、中国で育った人とブラジルで育った人とで考え方が異なるシーンを多々散見しました。自分はどちらかということと中国で育った人の考え方に近いなと文化の類似性を垣間見ることもありました。このように学びながら異文化の理解を深めることができ、毎日が非常に有意義なものでした。



最終日の集合写真

▼埼玉県のPR

[地図と写真で紹介]

現地では、ひとりでも多くの人に「日本に行ったら、埼玉県にも行ってみたい」と思ってもらえるように広報活動を行いました。上手くいくこともあれば、上手くいかないこともあり、常に改善を重ねる日々でした。

2週間と期間も短いので初日から張り切っていました。空港について早速、バス停の場所を聞くふりをしてコーヒーショップの店員さんに話しかけました。「日本から来ました!」と告げると大抵の人が嬉しそうな顔で歓迎してくれます。しかし、早速壁にぶつかりました。自己紹介を続け、「埼玉」というワードが出ると途端に「はてな」が浮かびます。挙句のはてには、「埼玉県は北海道の近く?」と聞かれてしまう始末でした。それまで全く接点のなかった外国の1つの県を紹介されてもチンプンカンプンになるのは当たり前のことです。そこで、1つ1つ相手が知っている情報と結びつけるように説明しようと思いました。どこに埼玉県があるのかは、地図アプリを使って「東京の北側に位置しています!」と視覚に訴えながら理解してもらいました。地図で埼玉県を見せると非常に会話の導線を描きやすかったです。例えば、地図アプリを使うことで、埼玉県の位置を一緒に確認した後、すぐに地図から観光地の画像へと移れます。地図と写真を駆使しながら「私の地元にはこんな綺麗な場所があります!」、「山と川があって綺麗な水が豊富だから、酒蔵が多いんです!実は日本酒やウイスキーの産地でもあります!」などと会話を進めていました。他にも、元々日本が好きで日本の文化やアニメを知っている人には「この街はアニメのロケーションになっているんだ!」などとその人が興味を示しそうな話題を深掘りし、埼玉県の紹介をしていました。相手のリアクションを見ながらその人に合う形で説明することの重要さが身に染みる日々でした。

[埼玉県を味わう]

ホストファミリーや他の留学生など、家や大学の中で落ち着いて会話ができる場合は、埼玉県のパンフレットを見てもらいながら紹介しました。こうした印刷物は、既に英文での説明があるので、自分の言葉足らずな部分を補うことができました。また、お土産に持っていった「和



銅最中⁴、「秩父自慢⁵」、「狭山茶⁶」も好評でした。これらはいずれも埼玉県産の和菓子・お茶です。実際に食べたり飲んだりしながら、埼玉県を味わってもらうことができました。

正直、異郷の地へ来て、こんなにも埼玉県の事を考えた経験は後にも先にもないのではないかと思います。この経験を通じて、自分自身はやはり故郷である埼玉県が大好きである事を再認識しました。また、それだけでなく、他の国の人にはどのように写っているのかという第三者目線での埼玉県を知ることができました。多くの人にとっては存在すらも知らない埼玉県、知っているようで知らない事ばかりの埼玉県。様々な埼玉県がそこにはありました。自分だけが知っている埼玉県の表情も大切にしつつ、誰かにとっての埼玉県の表情が親しみのあるものとなる様、これからも自分が貢献出来る事を最大限行っていこうと思います。

⁴ 和銅最中：日本最古の流通古銭「和同開珎」を型取った和菓子。味は小倉あんと柚子あんの2種類。

⁵ 秩父自慢：栗あんのスッキリした甘みと、クルミのカリッとした食感が楽しめる焼き菓子。

⁶ 狭山茶：埼玉県西部及び東京都多摩地域で生産されているお茶。静岡茶、宇治茶に並んで日本三大茶と言われている。

3. 総括 -課題と提案-

▼感想

「これぞオーストラリアの暮らし」という生活を体験したような気がします。行きの飛行機では、自分で Airbnb(民泊紹介サイト)で宿を取ったり、ユースホテルに泊まった方が良いのではないか、と思っていました。しかし、今ではホームステイで良かったと心の底から思っています。それはやはり、現地で暮らす人の生活に溶け込むことが出来るからです。Airbnb のような方法でも現地の生活を体験できるかもしれません。しかし、Airbnb では時に観光客用に作り込まれてしまっている場合が少なくありません。かつて私が東京で Airbnb のホストをやっていた時も少なからず観光客向けの「おもてなし」を準備していました。その点、ホームステイは真の意味での間借りに近く、現地生活の体験ができる方法だと思いました。オーストラリアの一般的な家庭がどのような番組を観て、どのように暮らしているのかなど様々な知見を吸収することができ、非常に有意義な時間でした。

▼今後の課題と提案

[課題 1]

〈現地住民との接点創出〉

自分自身で「埼玉県を紹介するきっかけ」を作り出すという経験は非常に有意義で、自発性を重んじる教育事業としては優れたものだと感じました。しかし、現地の人々と接し、紹介する機会がまだまだ少ないと感じました。つまり、1対1のコミュニケーションでは限界があるということです。私が訪れた2月は、不幸にもサマーバケーションと重なり、サザンクロス大学の現地学生と交流する機会がありませんでした。そこで、放課後にビーチを散歩したり、飲食店に立ち寄る中で現地の人に話しかけて機会を創出しました。このような方法で声をかけ、埼玉県の紹介ができた人は2週間で40人も満たない数でした。

[課題 2]

〈嗜好品での交流深化〉

海辺が注目されがちなクイーンズランド州のゴールドコーストエリアですが、

今回、内陸部のワイナリーに訪れることができたのは非常に幸運でした。思わぬ産品を知ることにつながりました。オーストラリアスタイルのピザに乗っているパインアップルと同じで、現地に行って初めて知ることが多かったです。

そして、想像している以上に、オーストラリアの事を知らないのだと痛感しました。その逆も然りです。例えば、埼玉県には多くの酒蔵や、世界に通用するウイスキー工場があります。しかし、こうした埼玉県産の嗜好品を知ってもらうための説明はあまり出来ませんでした。なぜなら「埼玉県がどのような場所か」を説明することに必死で、羊山公園の芝桜や長瀨などロケーションの説明ばかりに時間を費やしすぎてしまったからです。

[提案]

上記の課題を踏まえ、私は現地での JAPAN(SAITAMA)FAIR、日本での AUSTRALIA(GOLD COAST)FAIR の相互開催を提案します。この両フェアを開催することで、両地域の文化交流・相互理解を促進できると考えます。

現地を散策する中で、多くの施設を把握することができました。例えば、Gold Coast Convention and Exhibition Centre⁷です。ゴールドコーストの繁華街に位置しており、空港からもバスで40分程度で行くことができます。調べて見たところ、普段からブックフェスタやフード&ワインフェスティバルなどを開催しているとのことでした。他には、海沿いの Kurrawa Park という公園も野外会場としてフェスティバルに使用されているようでした。現地のゴールドコースト商工会議所⁸などの協力を仰ぐことで、日本側から出品する企業との事前打合せなども可能であると考えます。逆に、埼玉県ではさいたまスーパーアリーナを利用することで同様のイベントを開催することが出来るでしょう。

地域内に位置する高校生や大学生をイベント作りに巻き込んだり、イベント実施中に地域で活動する団体によるパフォーマンス披露や文化交流の企画を実施したりすることで人的な交流の場も作る事が出来ると思います。

⁷ Gold Coast Convention and Exhibition Centre: ゴールドコースト市中心地域に位置する会議場、展示場等を持つ施設。しばしばブックフェスタやフード&ワインフェスティバルなどに利用されるとのこと。<http://www.gccec.com.au/>

⁸ ゴールドコースト日本商工会議所: 経済活動の健全な発展を計り、所属会員の相互の親睦及び共通の利益を増進し、併せて日豪経済の発展に資することを目的する非営利団体。ブリスベン日本総領事館との連携と協力も行っている。<http://jccigc.org.au/wp/>

4. おまけ

▼フォト・ギャラリー

[夕飯] *パインアップルやリンゴなどの果物が多く使用されている。



[ゴールドコースト市の景色]



Queensland No. 1(展望台)からの景色(北)



Queensland No. 1(展望台)からの景色(南)



内陸部に広がる大草原



夕暮れの海岸線



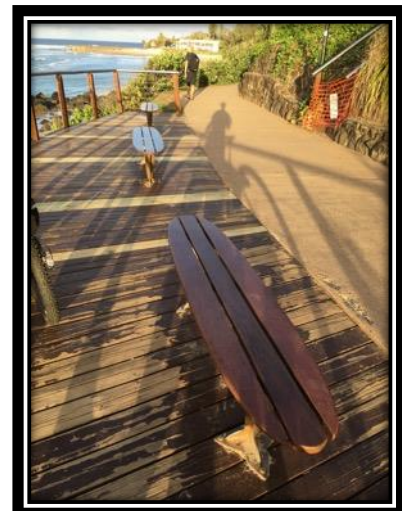
クーランガッタ・ビーチ



ホストファザーとのサイクリング



クイーンズランド州とニューサウス
ウェールズ州の旧州境



サーフボード型のベンチ